

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第492号 平成25年2月13日

不愉快な謝罪

私は、AKB48というアイドルグループの事は殆ど知りませんので、彼女らの活動に対してコメントできる立場にはないのですが、メンバーの1人峯岸みなみさんの「丸刈り謝罪」の姿には、唾然とし、不愉快な気分を禁じ得ませんでした。

事の起こりは、彼女が男性との交際を週刊誌で報道され、研究生に降格させられた事を受けて、丸刈りになって涙ながらに謝罪したというのですが、彼女の丸刈りの写真を見て、その異常さに言葉を失ったというのが私の率直な感想です。

2月6日付の朝日新聞投書欄に、「規律を破った事に対する責任は取らなければならぬのはわかるが、女性にとって大切な髪を丸刈りにするまでの代償が必要なのだろうか。トップアイドルに憧れてまねをする子どもが出る可能性もある。影響を考えて欲しい。」という趣旨の投書が掲載されました。

私も、この投書の意見には同感ですが、私が峯岸さんの映像を見て最初に思い浮かべたのは、第2次世界大戦下のパリでの出来事でした。

ドイツ軍の占領下にあったパリが、連合軍によって解放された日、ドイツ軍に協力的だったとされた女性たちが丸刈りにされ、さらし者にされたという事件がありました。峯岸さんの丸刈りの映像は、あのパリ解放時に頭を丸刈りにされたフランス女性の映像と重なって見えたのです。そっくりだったといっても良いかも知れません。その為でしょうか、涙ながらに謝罪する峯岸さんの姿に、気の毒とか可愛そうというよりも何かしら不快な違和感を覚えたものです。

今回の丸刈り謝罪について、峯岸さんは事務所にも相談せず自分で決めたという事のように、ネット上の公式チャンネルにも峯岸さんの「丸刈り謝罪」の姿が一時アップされていたので、AKB48の事務所自体がその行為を容認した、あるいは、それを利用したとも取れるでしょう。

AKB48は「恋愛ご法度」なのだそうです。20歳の女性に恋愛そのものを禁じるというのは、非人道的なような気がしますが、彼女達はその事を承知の上で活動に参加しているのだとすれば、峯岸さんは自分の意思でその禁を破った以上一定のペナルティは仕方ありません。今回の事で峯岸さんは研究生に格下げされたようですが、それならそれで、そこから這い上がるしかありません。いずれにしてもそれはグループの内で始末をつければ済む話で、世間一般に公開するような話ではな

い筈です。

AKB48は、「恋愛禁止というお約束を作る事で、ファンに自分もアイドルとつきあえるかもしれないという幻想をいだかせてきた(2月6日付朝日新聞)」とすれば、峯岸さんはファンに対して謝罪しようとしたのかも知れません。しかし、「丸刈り謝罪」の映像を見てAKB48のファンの皆さんはどう感じたでしょうか。私には、謝罪も過剰に過ぎると、それも演技なのではないかと思えてくるのです。

アメリカのCNNが、峯岸さんの丸刈り謝罪会見に対して「体面を失って名誉を回復しようとする武士のようにも見えた」とする記事を公開した、との事です(J-CASTニュース)。その記事では、AKB48について「厳格な秩序と行動規範が定められた軍隊のような組織」と表しているそうですが、最も健康的で平和的なイメージである筈のAKB48が、今回の出来事で軍隊と重ね合わせて見られた事は皮肉な事です。

また、今回の騒動に関していえば、有名人のスキャンダルを飯の種にしている芸能メディアは兎も角として、れっきとした週刊誌がアイドルのスキャンダルを暴き、それで販売部数を増やそうというのは余りにも姑息であり、メディアと呼ぶにはいささか恥ずかしくはないか、という事は申し上げておきたいと思います。

(塾頭：吉田 洋一)